

SAMPLE | 金額・年齢・家族構成はすべて架空です

契約前の変額保険 ファイナンシャルプラン表

家計全体の中で、損や見落としを減らすための判断材料を見える形にします。

相談テーマ	変額保険の契約前相談	ご家族（架空）	夫 42 歳・妻 40 歳・子ども 2 人（10 歳・7 歳）
実現したいこと	教育費を確保しながら、老後まで家計の余力を残す	現在の金融資産	預貯金 650 万円／投資資産 180 万円

家族とお金の見通し

単位：万円／年（残高のみ万円） ※税金・社会保険料を差し引いた手取り収入で表示

年	年齢 夫・妻	家族の予定	手取り収入	基本生活費	教育・特別支出	相談テーマ費	年間収支	金融資産残高
2026	42・40	現在	720	420	120	36	+144	830
2030	46・44	高校・中学	700	440	190	36	+34	1,020
2035	51・49	大学・高校	660	460	250	36	-86	850
2040	56・54	教育費終了	620	470	90	36	+24	900
2045	61・59	退職準備	540	450	60	36	-6	880

この表から判断できること

01 月 3 万円を 20 年払うと、支払総額は 720 万円です。	02 教育費が重なる時期に、途中解約で受取額が払込額を下回る可能性を確認します。	03 保障と資産形成を一体にする場合と、分ける場合を同じ条件で比べます。
------------------------------------	--	--------------------------------------

数値は見本です。実際のプラン表は、相談者の資料と希望を確認して作成します。将来の収支や運用成果を保証するものではありません。

テーマ別の判断プラン

すすめられた変額保険に、契約前の家計で無理がないか

家計の見通しと相談資料の数字を重ね、選択肢ごとの影響を比べます。

選択肢	毎月の支出	得られるもの	判断前に確認すること
変額保険に入る	3万円	死亡保障 2,000 万円＋運用	費用・最低保証・途中解約時の受取額
定期保険＋積立	保険 0.8 万円＋積立 2.2 万円	保障と資産を別々に管理	保障期間・積立先・価格変動
いったん見送る	0 円	手元資金を確保	保障不足の期間と再検討日

次に取る 3 つの行動

STEP 1 設計書で、20 年間の払込総額・費用・途中解約時の受取額を確認する。	STEP 2 必要な死亡保障額を、公的保障と預貯金を差し引いて計算する。	STEP 3 同じ月 3 万円・同じ期間で 3 案を比較し、契約するか決める。
---	--	---

相談後に手元に残るもの

この 2 ページのファイナンシャルプラン表を原則 2 営業日以内に送ります。家計全体を見ながら、契約する・続ける・見直す・専門家へ確認するのどれを選ぶか、自分で判断できます。

この見本だけでは 決められないこと	将来の運用結果、途中でやめた場合に戻るお金、税金は断定できません。契約するかは本人が決めます。そのために必要な数字と、いま相談している担当者へ聞く質問をプラン表に残します。個別の税金は税理士へ聞く質問にします。
----------------------	---

運営：スペシャリスト・ドクターズ株式会社（保険代理店）

60 分の相談とファイナンシャルプラン表は、相談者の費用負担 0 円です。運営費は、提携する金融機関から受け取る手数料でまかなっています。

この PDF は表示例です。氏名・契約番号・会社名・金額はすべて架空です。個別の税務・法務判断は、税理士・弁護士・司法書士等へご確認ください。